

＜2：バッファポリゴンの作成＞

バッファポリゴンとは、ラインデータ・ポリゴンデータ・ポイントデータに対して指定した距離の面データを発生させたものである。設定した距離から外れる境界点データを抽出するために作成する。

- ① ベクタ＞空間演算ツール＞バッファを順に選択（図 3.4-30）

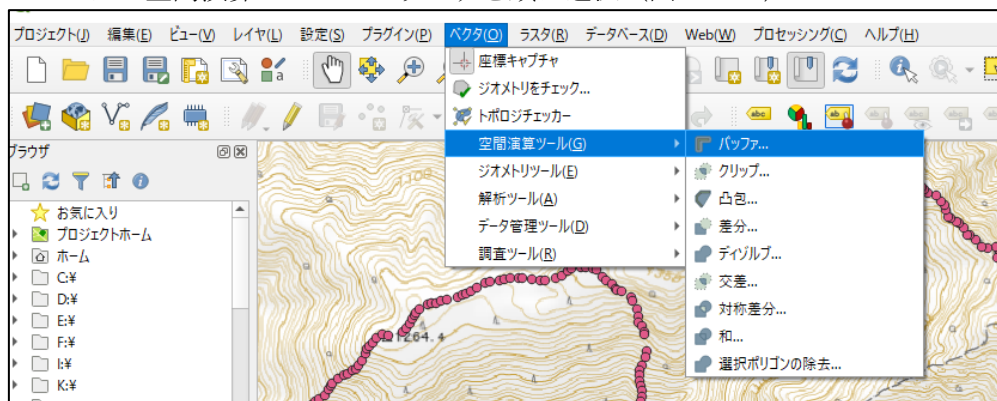


図 3.4-30 QGIS の操作 1

- ② 【入力レイヤ】前項（＜1＞⑩）で作成したラインデータを選択する（図 3.4-31）
 ③ 【距離】任意の距離を設定する（図 3.4-31）
 ④ 【バッファ】データの保存先を指定する（図 3.4-31）→実行する。

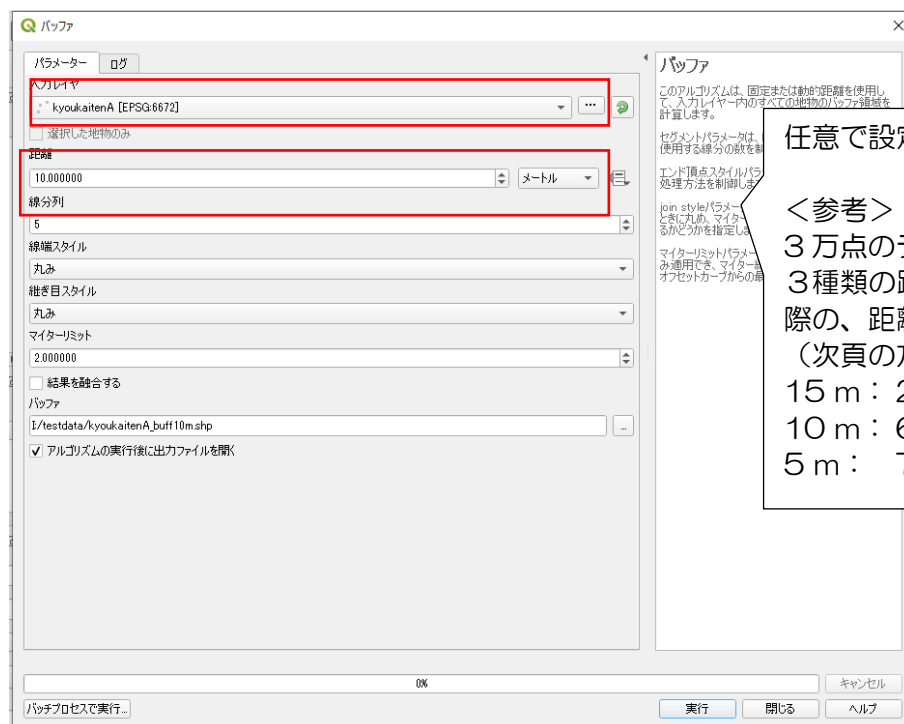


図 3.4-31 QGIS の操作 2

＜3：バッファポリゴンから外れるポイントを抽出＞

- ① GIS ソフトウェア上に「境界点データ」と「バッファポリゴン」を表示させ、「ベクタ」>「調査ツール」>「場所による選択」で「空間的關係：交差する」に設定する（図 3.4-32）。

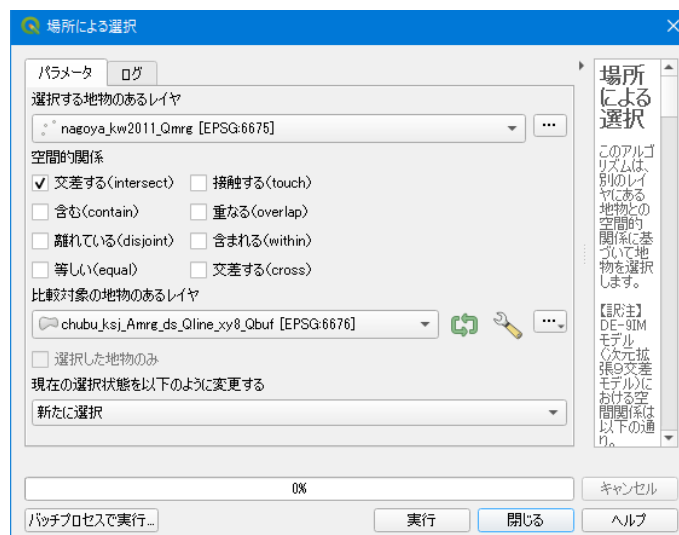


図 3.4-32 QGIS の操作 3

- ② 実行すると「バッファポリゴン」と空間的に重複する「境界点データ」が選択される（選択：黄色）が、選択要素の反転をすることで「設定した距離から外れる境界点データ」を選択できる（図 3.4-33）。

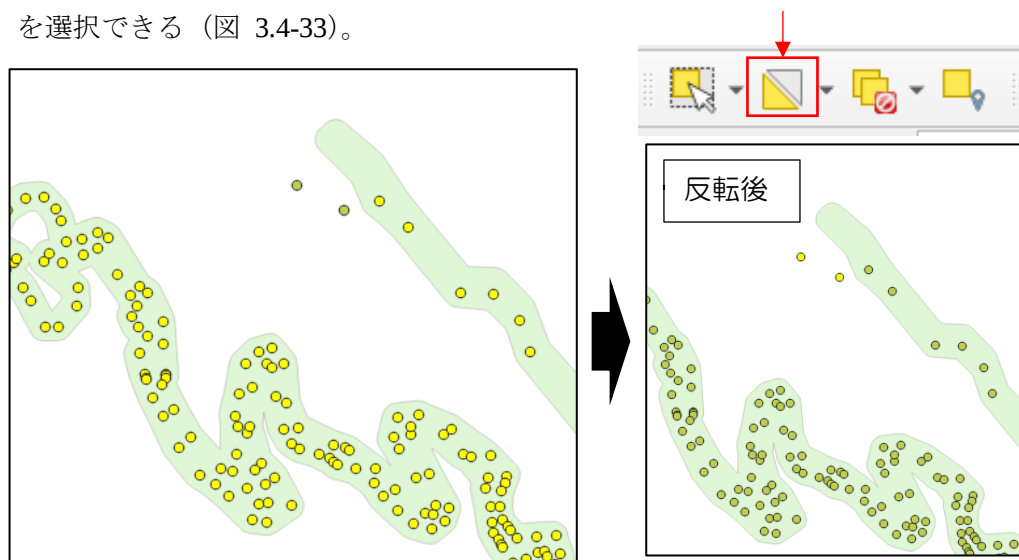
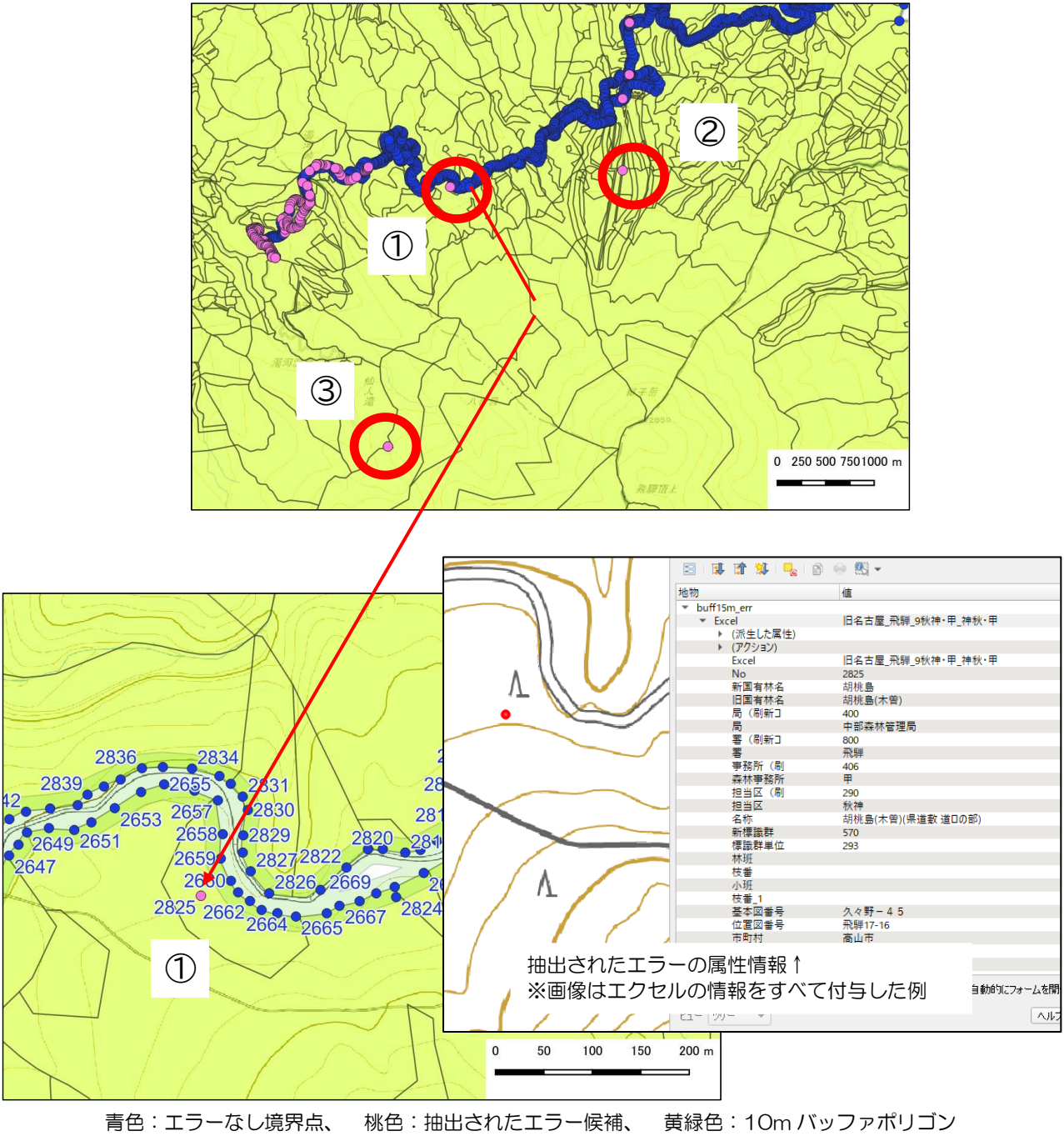


図 3.4-33 QGIS の操作 4

- ③ 「設定した距離から外れる境界点データ」を選択した状態で、「地物の保存」を行うと、対象データ（設定した距離から外れる境界点データ）のみがシェープファイル等で保存される（「地物の保存」は 3.4-1⑨（図 3.4-8）を参照）。

抽出されたエラー候補の例を次に示す（図 3.4-34）



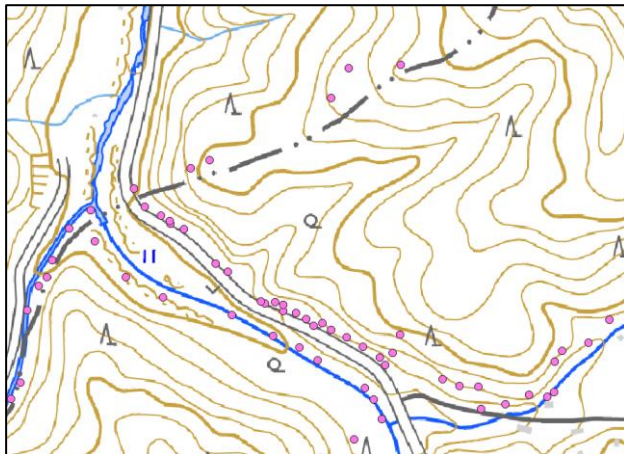
青色：エラーなし境界点、 桃色：抽出されたエラー候補、 黄緑色：10m バッファポリゴン

図 3.4-34 抽出されたエラー候補の例

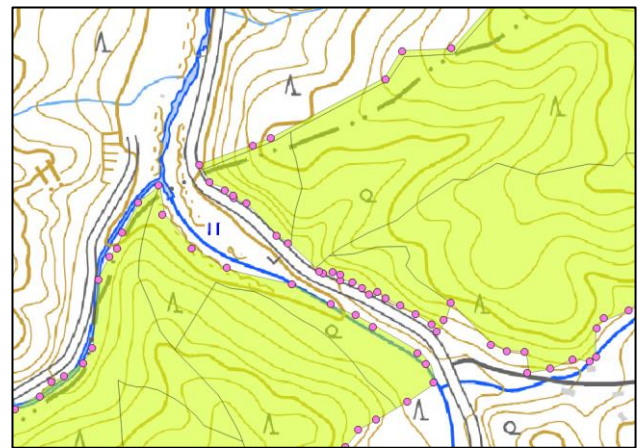
④ 地図や写真等を重ね合わせた点検

③で抽出されたエラー候補について、背景に地図や写真を表示し点検する。確認する項目を次に示す（図 3.4-35）。

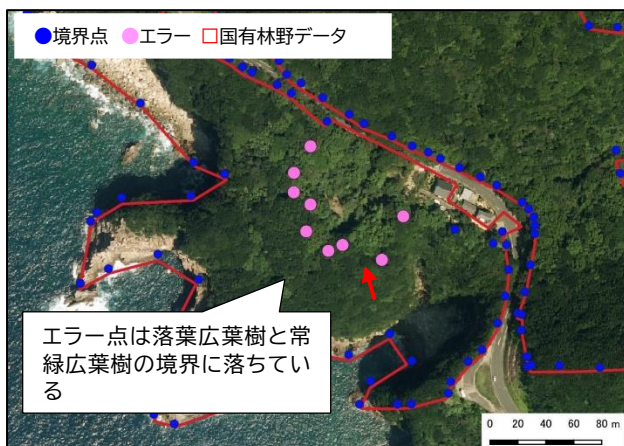
- ・住宅／民地に被っていないか
- ・林相が異なるか
- ・水域と被っていないか



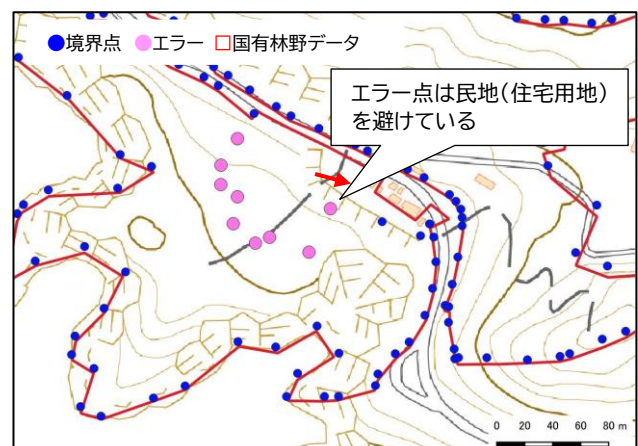
地形図（地形地物・植生記号等）との対応はどうか



国有林野データ外縁との対応はどうか



林相との対応はどうか



民地との対応はどうか

図 3.4-35 確認ポイントの例

● 地理院タイル(全国最新写真(シームレス))

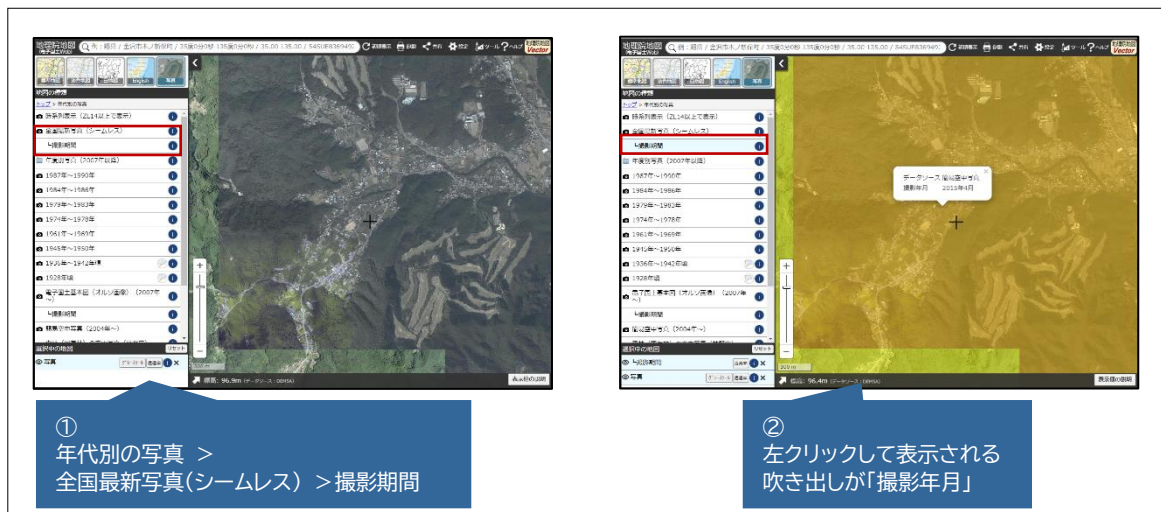


図 3.4-36 全国最新写真（シームレス）の撮影年月確認方法

「全国最新写真（シームレス）」は、「電子国土基本図（オルソ画像）」、「東日本大震災後正射画像」、「森林（国有林）の空中写真（林野庁）」、「簡易空中写真」、「国土画像情報」から作成されており、「電子国土基本図（オルソ画像）」は地理院地図上で確認することができる（図 3.4-36）。

また、「東日本大震災後正射画像」は 2011 年 3 月以降の写真、「森林（国有林）の空中写真（林野庁）」は林野庁が 2011 年以降に整備した森林（国有林）の空中写真、「簡易空中写真」は 2004 年以降の写真、「国土画像情報」は 1978 年～1987 年の写真である。

● Google Maps

現在、Google Maps 上で衛星画像の撮影年月を確認する方法はない。しかし、Google Earth Pro 上では撮影年月を確認できる（図 3.4-37）。

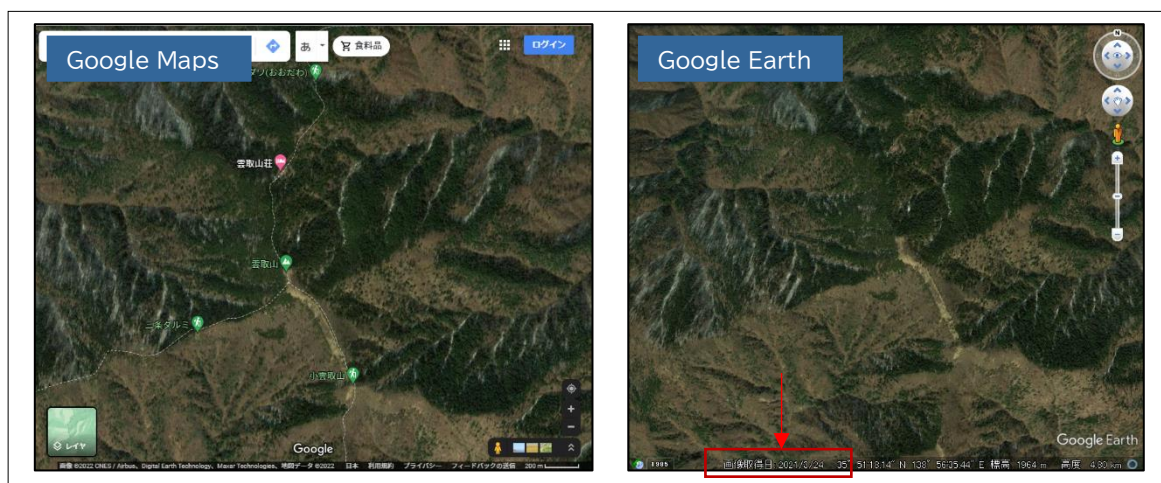


図 3.4-37 Google Maps 衛星画像等の撮影年月確認方法